

令和6年度第2回諫早市介護予防・日常生活支援推進会議要旨

1. 日 時：令和6年10月8日（火） 19：00～20：20
2. 場 所：諫早市健康福祉センター 1階 多目的ホール
3. 内 容

（1）報告

①令和6年度第1回介護予防・日常生活支援推進会議（書面会議）回答書の取りまとめについて

- ・資料1を用いて説明。委員からの意見をもとに、介護予防（フレイル予防）教室において実施した取り組みの状況及びフレイル予防についての周知媒体のアクセス数の報告を行った。

【意見など】SNSの活用の工夫について、スマートフォン慣れしていない高齢者に対し、どのようにSNSへ誘導していくかが重要な課題ではないか。

②諫早市短期集中予防サービス（サービスC）について

- ・資料2及び動画を用いてサービスCの目的や内容、実績及び課題について説明。併せて、サービスCに関りがある委員から現場の状況を情報提供していただいた。

【意見など】

- ・訪問型と通所型の実施時間はどれくらいか。
→（事務局）通所型は約2時間、訪問型は約1時間
- ・サービスCはお金がかからない上に運動、認知、栄養、口腔、全部をカバーできるのになぜ参加者や受託事業者が増えないのか。
→（通所サービス事業所連絡協議会委員）3年に1度の介護報酬改訂の度に書類業務が増えており業務がかなり逼迫している。また、サービスの内容も濃くなっていることから、専門職の手がサービスCまで回らないという現状がある。
→（座長）利用者を増やしたところで、事業所が増えなければサービス提供ができない。事業所の拡大の工夫についても、今後市の考えを共有していけたらと思う。

（2）意見交換

『サービスCの必要性や効果をどのように伝えたらよいか』

①現状の問題点・対応策の提案

- ・栄養改善の件数が少ない
（理由：チェックリストの項目だけだと対象になり得る人が拾えない、体重だけでは栄養改善が必要かどうかの判断がしにくいいため。）
- ・高齢者にとって広報いさはやは見づらいものとなっている。
対応策：年齢に応じて伝え方の方法を変え、集団に出向いて個人へつなげていく。

- ・サービスCの名前がわかりにくい、利用者にとってイメージがつきにくい。
対応策：住民や民生委員が対象者に伝えやすいネーミングを考える。運動・栄養・口腔機能・認知機能のうちの該当項目に合わせた言い方を考える。
- ・サービスCの効果について、介入した専門職及び本人は実感できるが、家族や医療機関等の周囲の人は知らない。
- ・サービスCの利用者で耳が遠い方に対して、内容が伝わりづらいところがあるため、そういった方への介入が必要。

②伝え方について

- ・サービスCの前後の状態の変化や利用者の心境の変化についてのPR動画を作成し、集いの場等で流す。
- ・年代別の伝え方を工夫する。
- ・口腔、栄養に関してはサービスCの前後の状態をPRすることが難しいイメージがあるため専門職の方々に評価の仕方について意見の聞き取りを行う。
- ・栄養に関して、食の制限ばかりではなく、楽しみも残す工夫ができるとよい。
- ・歯科医院が、受診者や口腔機能低下症になる前の人にサービスCの対象はどういう人になるのか、口トレは大切であること、“なってからでは遅い”ので“早めに”ということを伝えていく。
- ・サービスCの普及には利用者の口コミに効果があると考えられるため、伝える場があるとよい。
- ・サービスCの体験会を行う。
- ・サービスCを卒業した人の成功体験や写真を用いてPRする。
- ・サービスCの説明用チラシを作成し、病院から患者へ、市から地域へPRする。
- ・サービスC対象者に受け入れられやすいように、事業所の専門職の顔写真が載っている資料を配布する。
- ・サービスCの利用後の予後についての分析を進めていくことでサービスCの効果を伝える材料になる。(利用後に介護サービスを利用した割合など)